



# ロマンシング・ ステージ おく。

町勢要覧1995

邑久バルーンミーティング  
『バルーンイリュージョン』



## 町の沿革

昭和27年4月1日、邑久・福田・今城・豊原・本庄・笠加村が合併し邑久町として町制を施行。昭和29年1月1日に玉津村を、昭和33年4月1日に裳掛村を合併し、現在の町の規模となる。

## 町名の由来

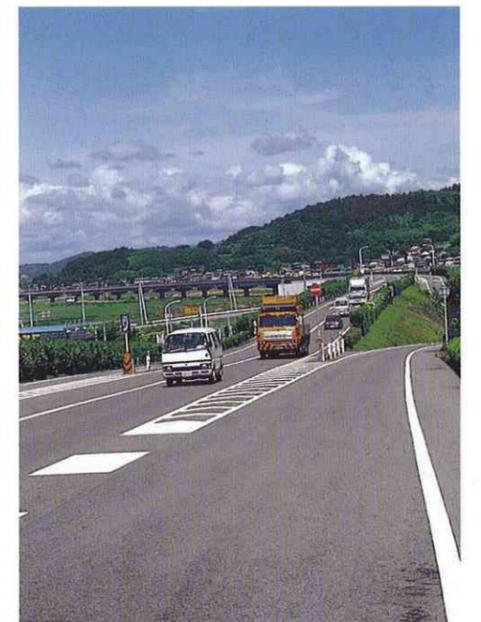
邑久郡は古くは「大伯」と呼ばれ、「国造本紀」には「大伯国造」と記されている。また、藤原宮跡出土の木簡に、「大伯評」「大伯郡」と表記されている。「大伯」から「邑久」へ変わったのは「続日本紀」からで、和銅6年(713)に国郡郷名が「好字」で表記されたことによる。

町勢要覧「ロマンシング・ステージ、おく。」1995  
発行/岡山県邑久郡邑久町 〒701-42 邑久町尾張300-1  
☎08692②1111 FAX 08692②3304  
印刷/石井印刷株式会社



# 「生活快適公園のまち」 実現に向け躍進する町

邑久町は、県庁所在地の岡山市に隣接し、JR赤穂線やマイカーを利用しての通勤、通学の便も良く、都市近郊型の町として発展を続けています。また、町を東西に縦断する岡山ブルーライン沿線は、産業振興や観光開発などに大きな可能性を秘めています。企業誘致やスポーツ・レクリエーション施設の充実など若者が定住できる魅力ある町づくりと、居住環境の整備を計画的に進め、21世紀へ向けて大きく躍進しています。



上・邑久町を東西に縦断する  
岡山ブルーライン  
左・通勤通学客でにぎわう  
JR赤穂線の邑久駅



・メルヘン人形劇場「ヘンゼルとグレーテル」



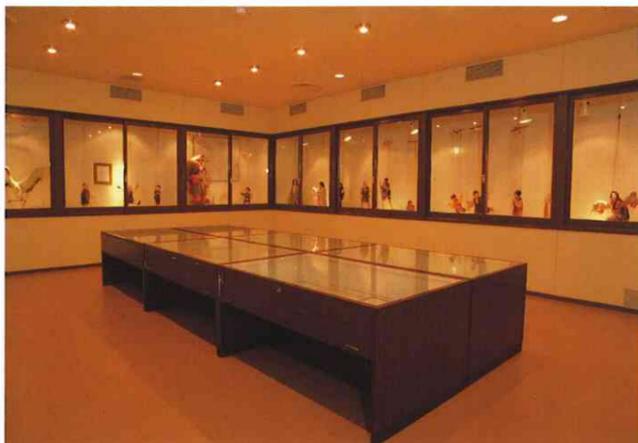
上・フェスティバル開幕を知らせる  
保育園児の鼓笛  
下・ユーモアたっぷりの人形の動作  
に大人も子どもも大爆笑



上・人形でテープカット  
下・竹田喜之助の代表作「雪ん子」



上・地元の中学校の生徒さんも参加  
右・邑久町尾張にある町郷土資料館  
の喜之助記念室には喜之助が製  
作した数多くの糸あやつり人形  
が展示されている。



## 夢あふれる人形劇の町

邑久町出身の偉大な糸あやつり人形師・竹田喜之助（故人）の功績をたたえるために始まった『喜之助フェスティバル』。師の優れた文化遺産の上に、毎年新しい夢を創造しています。毎年、8月の第3土・日曜日に開催しています。





・ピクニックにて（夢二郷土美術館蔵）

邑久町は、山あり川あり海ありと豊かな自然に恵まれた美しい町です。名所旧跡も数多く、特に虫明瀬戸のあけぼのは有名で、古くから詩や歌に詠まれています。また、大正ロマンの叙情的な画風で一世をふうびした竹久夢二の生まれた町でもあります。

## 自然に満ちロマンが漂う町



上・夢二の写真や遺品が多数展示されている“少年山荘”

左・邑久町本庄にある竹久夢二の生家は当時のままに保存されている。夢二はこの家で16歳まで過ごした。



左・桜の名所として知られる上寺山余慶寺（北島）

下・バードウォッチングが楽しめる大平山の野鳥の森（虫明）



上・虫明瀬戸のあけぼの

下・邑久町豊原の自然教育の森キャンプ場

左・養殖カキのいかだが並ぶ虫明湾



・権現まつり (大賀島寺)

# おくみてある記

## SIGHT-SEEING OKU



・魚まつり



・餅まき会陽 (神田稲荷宮)



・太刀踊り (正八幡宮)



・人形供養 (横尾山地蔵院)



・邑久町港まつり



(山陽新聞社刊「最新版・岡山県万能地図」より)



・みかん狩り



・カキ



・マスカット  
・ピオーネ



・虫明焼

# 邑久の 民話・伝説

## 能家と達仲の松

大橋貝塚からキャンプ場に向い、約二百メートルほど南に行く、道べらに小さな祠があります。誰がお詣りしたのか燈明がついていました。祠のそばに二抱えもあったと思われる大きな根っこが目につきます。これが宇喜田能家にまつわる達仲の松です。

達仲の松という名前は、どういう意味があるのか定かではありませんが、能家の改名の玄仲が立仲↓達仲といつの間になくなってきたのではないかと思われれます。

達仲の松の伝説について、古老の話をまとめてみると、今から四百年ほど昔にさかのぼる戦国時代、砥石山城主宇喜田能家を島村豊後守宗政が急襲しました。能家は敢えなく自害しましたが、その骸は一時仮埋葬され、その場に植えられた松が達仲の松と言いつたに伝えられているそうです。

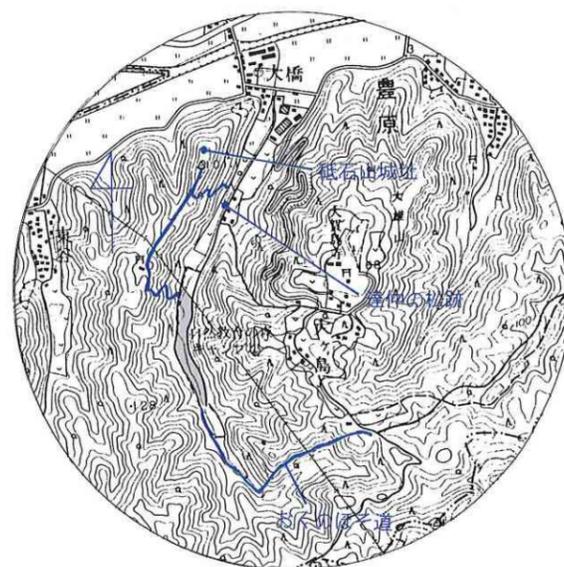
さて、もの本によれば、能家は浦上家の重臣として仕えた柱石の老臣で、多くの戦功をたてた智勇兼用の名将として称えられています。能家は、浦上家の重臣として各地に転戦すること五十年、老いて砥石城に隠退して常玖と号し老いの身を養っていました。



▲ 今では根っこだけが残っています

同じ浦上家の重臣であった奸悪な島村豊後守宗政は、能家の声望をねたんで能家を急襲しました。この時城内は無勢で不意をつかれ、能家は歩的もままならず、戦うこともできず自刃しました。天文三年（一五三四年）六月晦日のことでした。

当時は天下乱世にしていわゆる下剋上の時代で、各地に英雄豪傑が生まれ、みな覇を立てることに狂奔し、時に主君を亡き者にし、あるいは兄弟、親族、盟友をも滅ぼすような時代でした。能家は主君浦上家に仕えて、二心なく終生忠節を尽くし、友を信じ、臣を恵み、武勇に優れた戦国時代には稀な武将であったと伝えられています。



後の世に、村人たちは常玖能家の偉れた人柄を敬い偲びつ、名將の敢えない末路をも弔い、この達仲の松のあたりに祠を建てねんごろに祈ったとのこと。

近くに住む老人の話のなかに、この松の落ち葉をたくと唾者になったり、身体に腫れ物ができたりして、なかなか治らなかったのが、この祠にお詣りしてお願いと、にわかになくなったという伝えもあるとかで、近在の人々のお詣りは今も続いているとのこと。

なお、村社日佐神社の記録に、境内末社として『豊原西山達仲神社』ありと記されており、この祠が達仲神社であろうと思われれます。

### ■ 題字・書家 奥田桂峰 ■ 文・郷土史クラブ



#### ■ シンボルマーク

人が手を取り合い、その間にはハートが浮かび上がって、“人と人とのふれあいや心の豊かさを大切にしていきたい”という願いが込められたシンボルマークです。町のリズムカルな躍動感あふれるイメージも表現しています。イメージカラーは、それぞれ「ロマンスピンク」「カルチャーグレー」と名付けられた、あでやかで印象的なピンクと、落ち着きとあたたかみのあるグレーの2色。このシンボルマークのもと、邑久町は“輝く明日”へ向け、表情豊かな町づくりをすすめます。

### 町民憲章

(昭和57年8月制定)

わたくしたちは瀬戸内の風光、吉井川の清流、千町の沃野など豊かな自然と、長い伝統に培われてきた邑久町の住民です。このふるさとに誇りを持ち、町民互いに協力し、平和で豊かなまちづくりを進めるため、この憲章を定め、その実現に努力します。

- 自然を愛し、環境をととのえ美しい町をつくりましょう。
- 秩序を守り、協力して明るい町をつくりましょう。
- 勤労を重んじ、生産を高め活気のある町をつくりましょう。
- 人権を尊び、生きがいと安らぎのある町をつくりましょう。
- 歴史と伝統をたいせつにし、文化のかおり高い町をつくりましょう。



愛称「ロマンちゃん」

#### ■ マスコットキャラクター

前から見るとハートが2つくっついたような頭、首に結んだ大きなリボン……この女の子の愛称は「ロマンちゃん」。テニスをしたり食事をしたり、愛きょうたつぷりの、かわいいそのしぐさは、子どもたちからお年寄りまで広く親しんでいただけます。ロマンちゃんは、きょうも明るく希望を運びます。



町木・ウバメガシ



町花・月見草



邑久町庁舎